

& and factory

4Q 2021

Financial Results



Our Mission

日常に を届ける

常識を打ち破る圧倒的な品質を提供し、少し先の未来を作っていく
革新性があるプロダクトを世の中に送り出し、人々の習慣を獲得する
非デジタルな業界に変革をもたらし、世の中をアップデートする

& AND COMICS

マンガはクールジャパン文化の1つとして国内外から注目されています。出版社など大手のコンテンツホルダーと二人三脚で、アプリ時代における新たなマンガ文化を築いています。



株式会社 スクウェア・エニックス



株式会社 白泉社



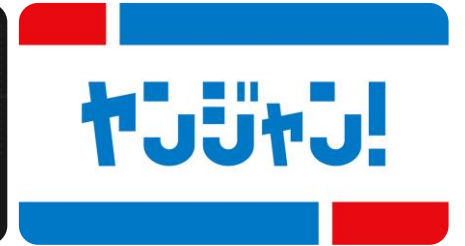
株式会社 集英社



株式会社 小学館



株式会社 日本文芸社



株式会社 集英社



株式会社 アムタス

& AND APPS

FFBE公式サポートアプリの「FFBEデジタルアルティマニア」、相談者にマッチする占いが見つけやすい占いアプリ「uraraca」を開発・配信し、スマートフォンを介して日々のちょっとした息抜きや熱狂的興奮をお届けしています。



FFBE公式サポートアプリ「FFBEデジタルアルティマニア」



占いアプリ「uraraca」

& AND HOSTEL

最先端のIoTデバイスを集結させた近未来の宿泊施設です。部屋自体がエンターテインメント空間であり、IoTデバイスの利用状況を収集・分析するマーケティングプレイスとしても活用しています。



Index

1. 2021年8月期 業績ハイライト
2. APP事業
3. IoT事業
4. 事業方針及び2022年8月期業績予想
5. Appendix



1. 2021年8月期 業績ハイライト



&。IoT事業における事業構造改革の進捗

- 6月にIoT事業の事業構造改革を発表後、組織の合理化を実施
- 2022年8月期においても一時的な費用の計上が見込まれるが構造改革は概ね完了
- 当初想定どおり2022年8月期の営業利益に対して約2億円の改善効果を見込む**

	&AND HOSTEL事業	その他IoT事業 (宿泊・賃貸不動産領域)
FY21.3Q	—	◆ totono及びinntoのソフトウェア 減損損失：1,800万円
FY21.4Q	◆ 一部店舗における賃料負担の見直し及び 契約更改に伴う違約金等：2.4億円 ◆ 2店舗をクローズ	◆ tabii、innto、totono各事業の譲渡を遂行 譲渡対価：2,700万円 一時費用：4,700万円
FY22	店舗の合理化を継続	構造改革費用が一部計上される見込み (最大800万円程度を営業外費用として想定) 譲渡先への引継ぎサポート業務を進行中

売上高

3,044 百万円

(YoY+3%、修正計画：3,050百万円)

営業利益

-83 百万円

(YoY+119百万円、修正計画：-90百万円)

APP事業（マンガ・エンタメ）

- 売上高、営業利益は四半期ベースで過去最高を達成
- マンガアプリ事業は堅調に推移、売上高は前年比+8%で着地
- 効率的な広告宣伝費の投下が奏功し利益率が改善
- 占い事業を中心とするエンタメ事業も着実に成長

IoT事業（RET・その他IoT）

- 6月にIoT事業における事業構造改革を発表
- 事業譲渡は概ね完了、譲渡先へのアフターフォロー継続中
- 事業譲渡に伴い「その他IoT事業」の売上高が剥落

& 2021年8月期 業績ハイライト

- 2021年6月25日発表の修正計画に対して売上高は概ね想定線、営業利益は改善して着地
- 当期純損失は修正計画に対して21百万円下振れて着地

単位：百万円	FY20	FY21			
	実績	計画	実績	予算差	前年同期比
売上高	2,946	3,050	3,044	-5	+98
営業損失	-202	-90	-83	+6	+119
経常損失	-259	-253	-239	+13	+19
当期純損失	-362	-540	-561	-21	-199

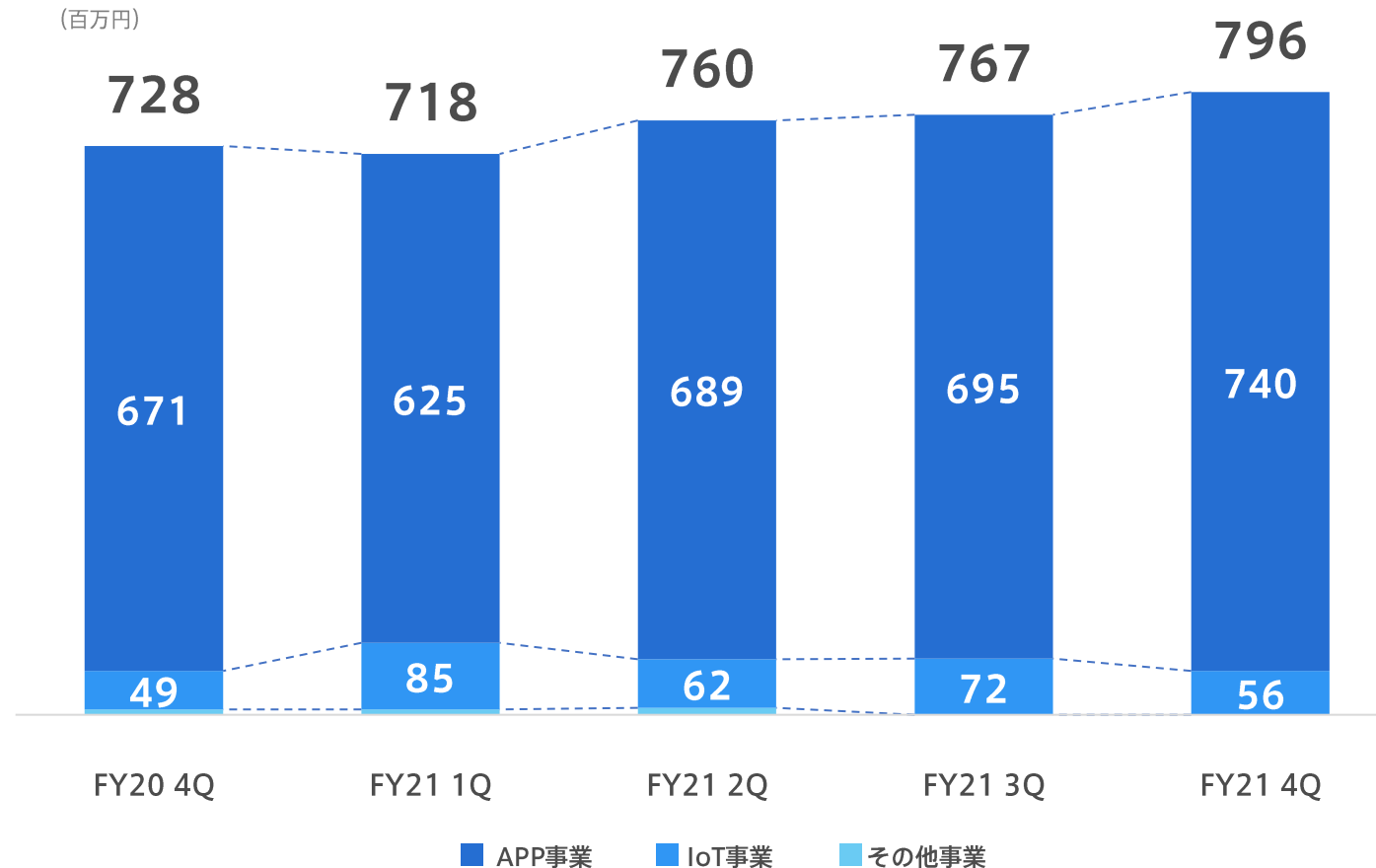
&。事業構造改革関連費用の内訳

- ・ 一時的な費用として&AND HOSTEL事業及びその他IoT事業における構造改革費用を計上
- ・ ソフトウェアに係る減損損失を計上
- ・ 2022年8月期もその他IoT事業にかかる費用が発生する見込みであり業績予想に織り込み済み

単位：百万円	FY21	FY22	備考
構造改革関連費用	292	8	FY21で概ね費用計上は完了
うち、&AND HOSTEL事業	244	—	契約更改に伴う違約金等
うち、その他IoT事業 (宿泊・賃貸不動産領域)	47	8	事業譲渡に伴う費用
└ tabii事業譲渡にかかる損失	39	8	
└ 事業譲渡に伴う従業員手当	8	—	
減損損失	52	—	事業譲渡に伴うソフトウェアの減損等

&。売上高の推移

- 引き続きマンガアプリ事業が堅調に推移
- その他のIoT事業においては、構造改革を見据えた事前準備により下期の進捗が低位に留まった



前年同期比

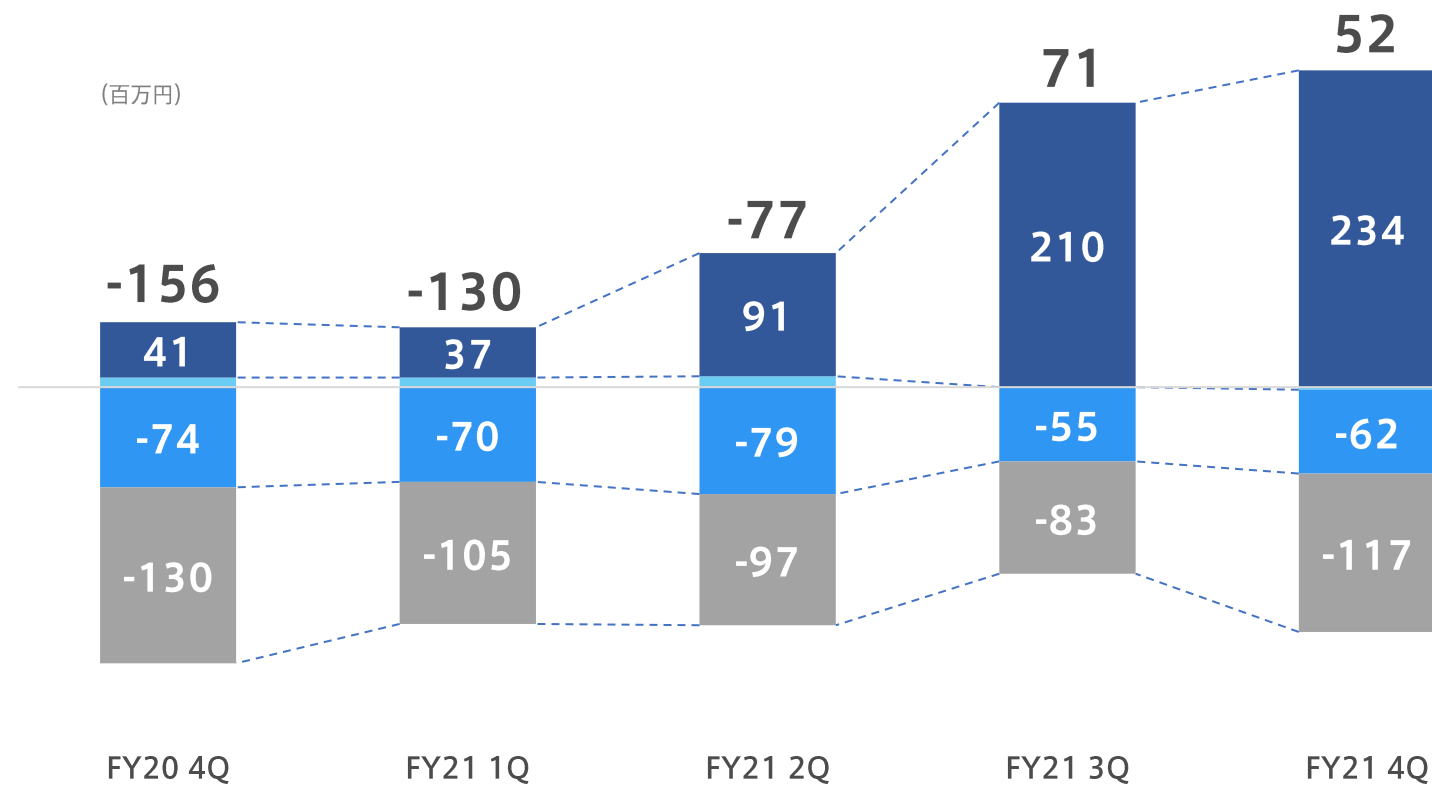
+ 9 %

前四半期比

+ 4 %

④。営業利益（セグメント利益）の推移

- ・ マンガアプリにおける広告宣伝費の効率的な投下により利益率が改善
- ・ 株主優待関連の費用の計上により、全社費用は4Qに増加する傾向は過年度から変わらず（4Qにおいて約3,500万円計上）



前年同期比
+209
百万円

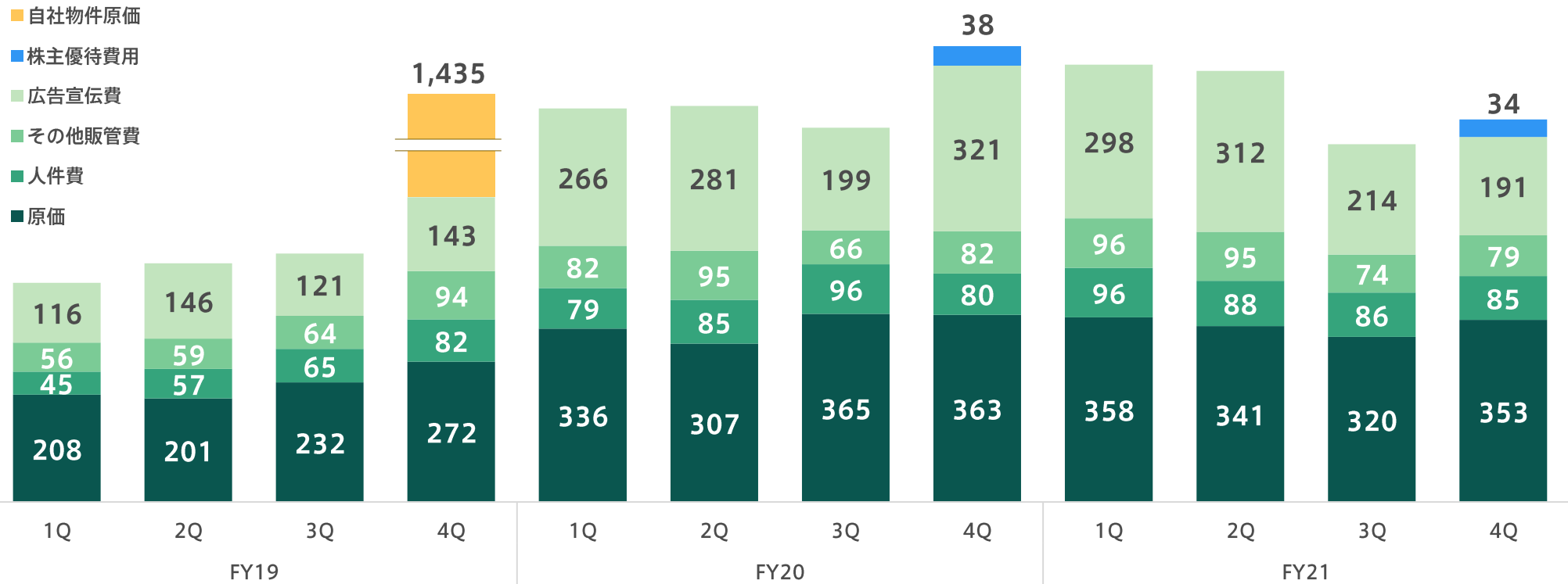
前四半期比
-27%

■ その他事業 ■ APP事業 ■ IoT事業 ■ 全社費用

コスト推移

- 効率的な運用により4Qの広告宣伝費はYoYで40%減少
- コスト構造に大きな変化は無いが、今期より一定程度のコスト圧縮を想定
- 今期からはエンタメ事業においても広告宣伝費を投下することで事業成長を加速させる計画

(百万円)



広告宣伝費率
(対APP事業売上高)

29%

42%

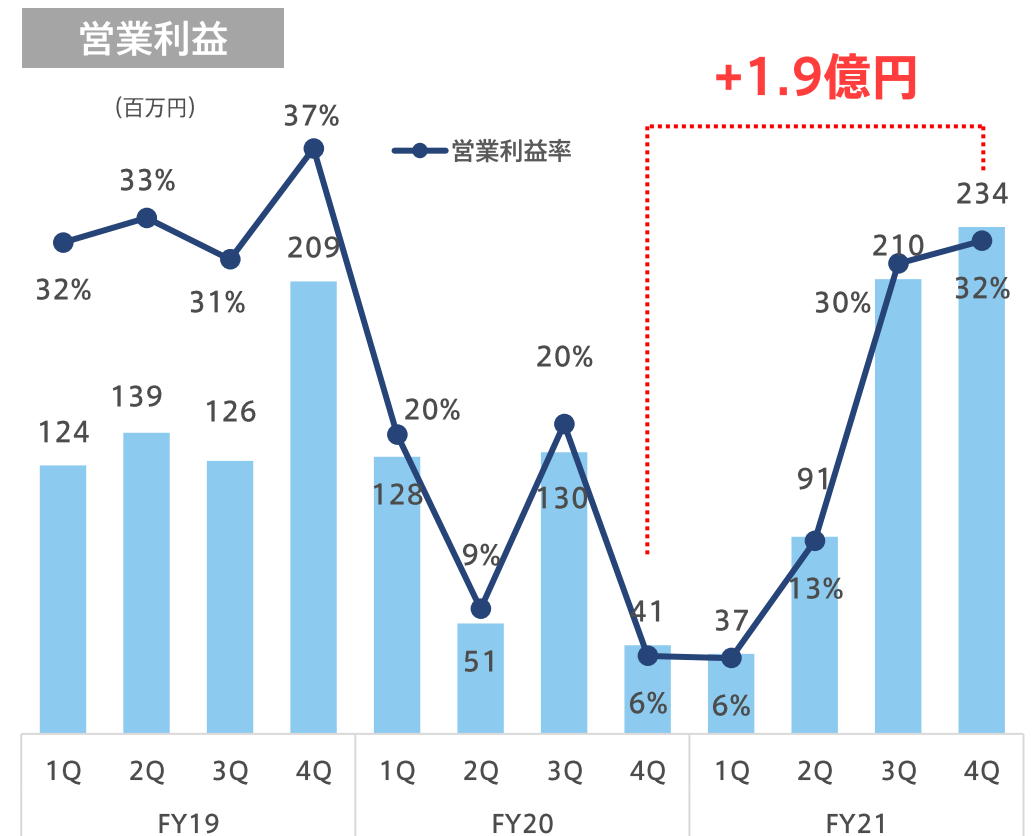
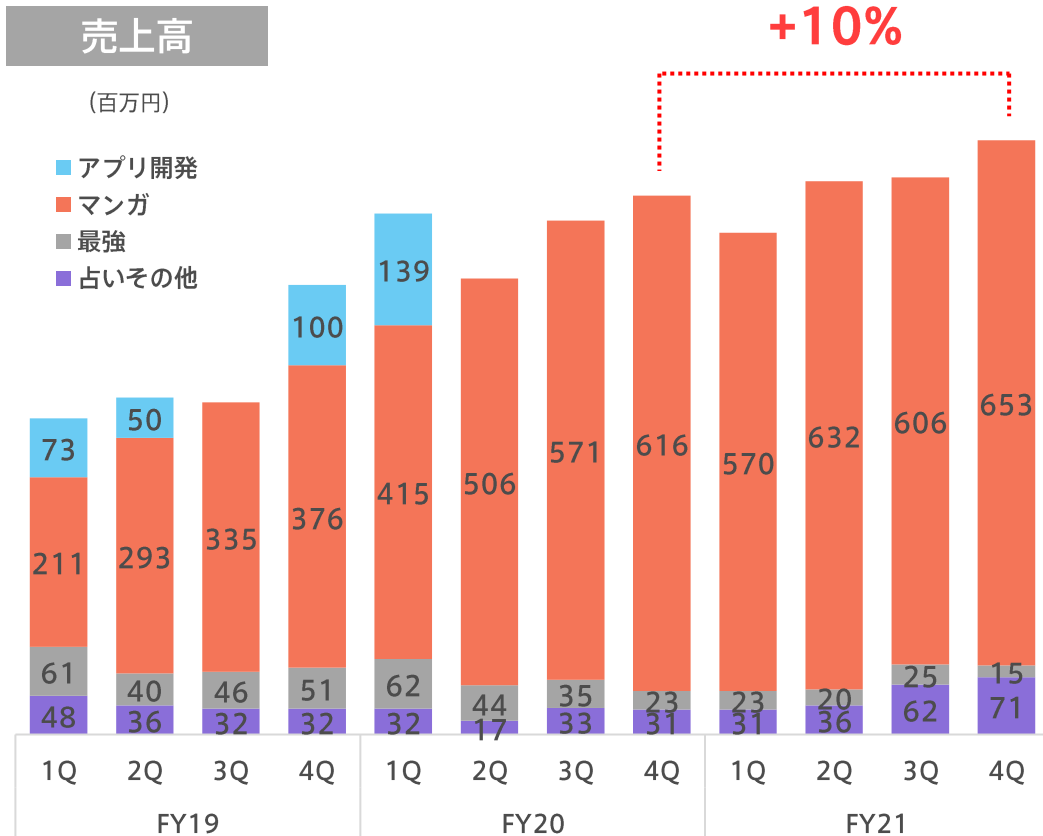
37%

2. APP事業



&。売上高/営業利益推移（四半期）

- **売上高、営業利益は四半期ベースで過去最高を達成**
- 広告宣伝費を効率的に投下したことにより、利益率は改善傾向にあり営業利益はYoY1.9億円増加
- 占い事業の成長により最強シリーズの利益減少分をカバー、エンタメ事業全体の成長を牽引



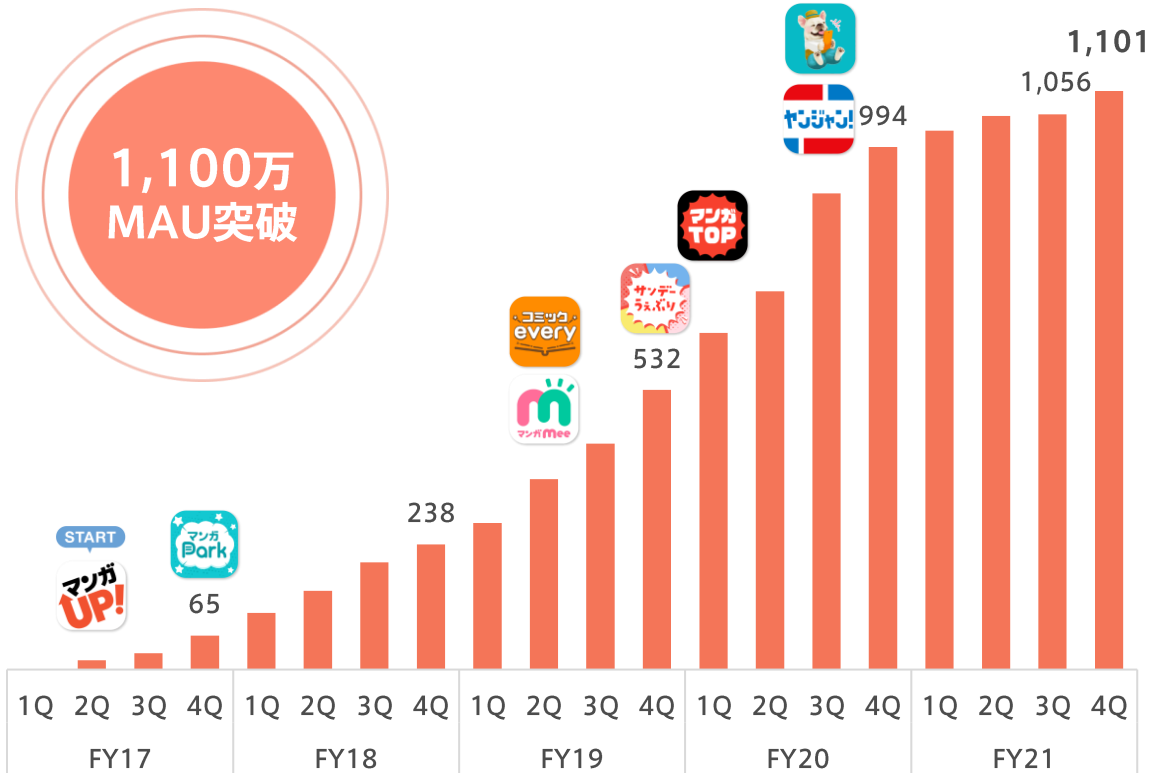
※アプリ開発は、初期開発に関する制作費等

マンガアプリKPIの推移

- ・ 人気作品の連載再開や一部アプリにおけるキャンペーン施策が奏功しMAUは増加
- ・ 一時低下していたARPUは施策の見直しにより回復基調

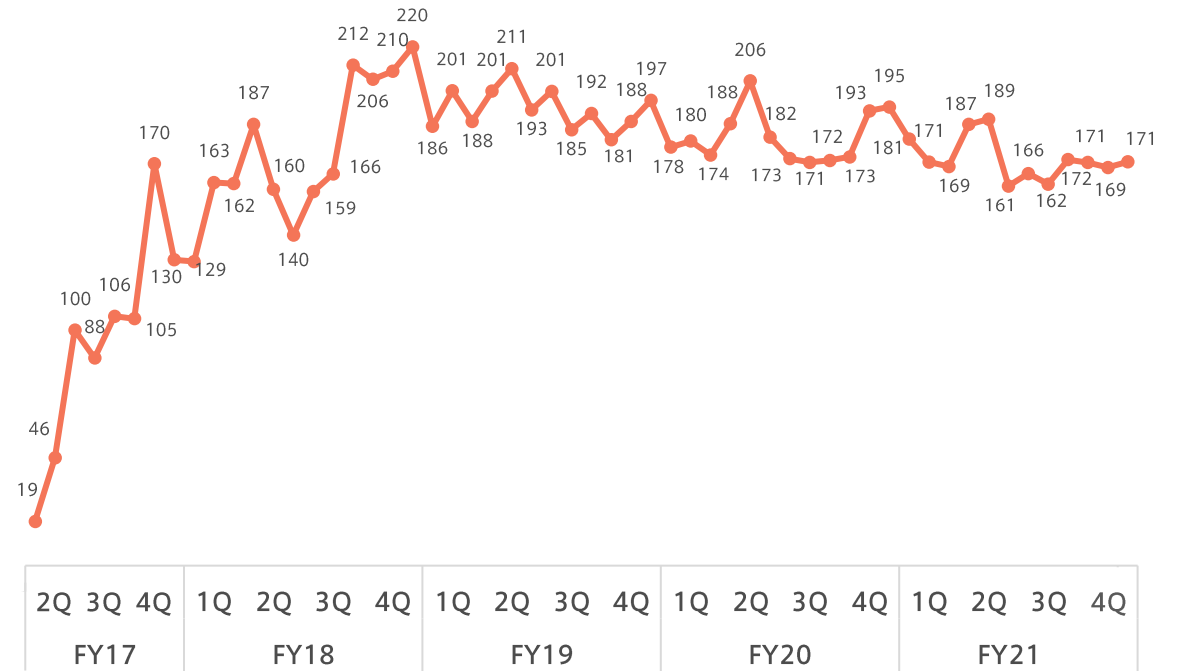
マンガアプリのMAU

(万人)



※マンガアプリのMAUの各四半期における平均値を採用

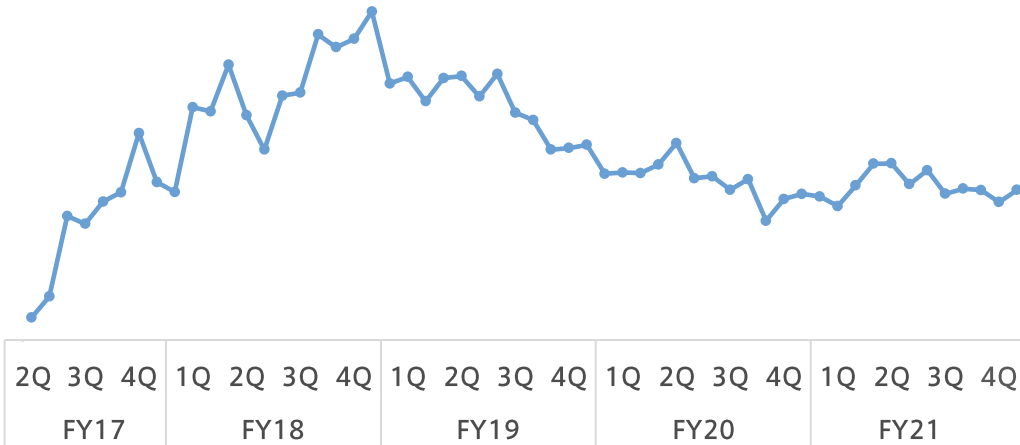
マンガアプリのARPU (円/人)



※2017年3月のマンガUP!のARPUを100として指数化
以降は、新規含む複数アプリのARPUの単純平均値を指数化

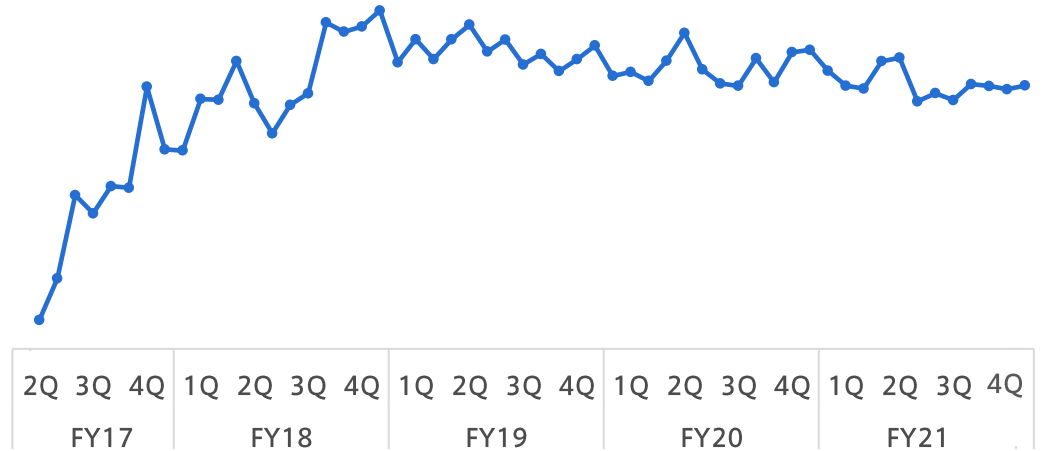
マンガアプリKPIの推移

広告ARPU (指数化)



- FY20末を底に回復傾向
- Skyfall社とのリワード広告の取り組みにおいて一定の成果あり

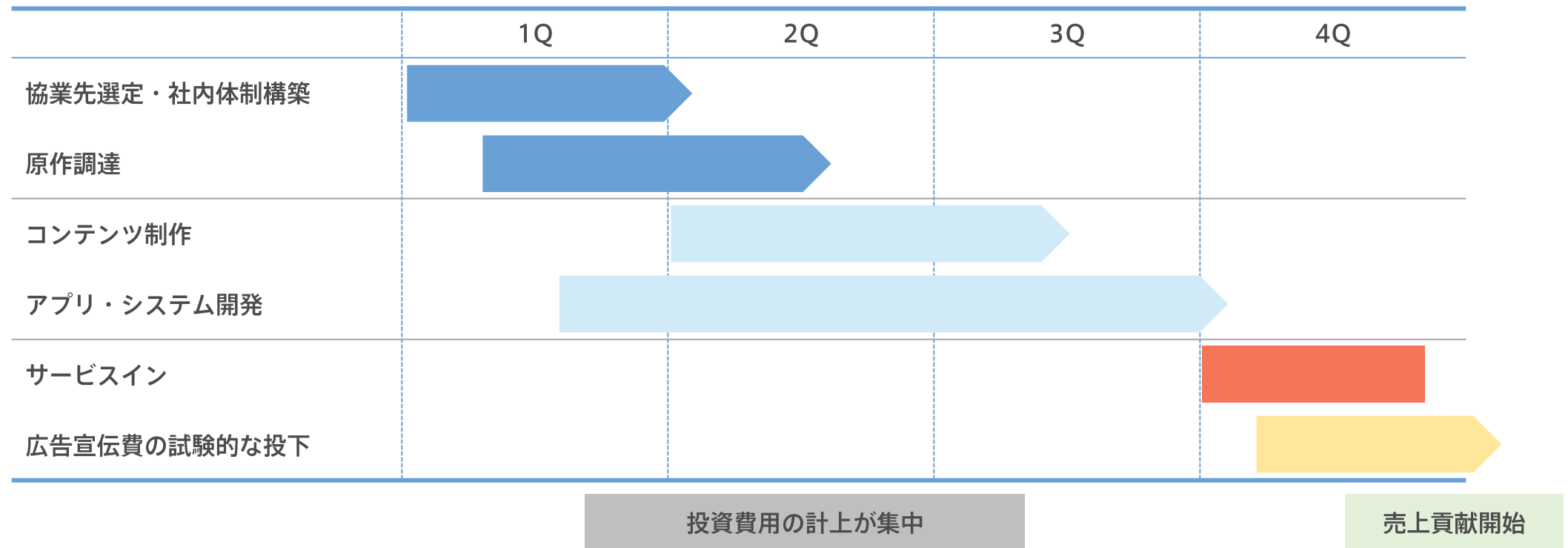
課金ARPU (指数化)



- 一部アプリにおいて獲得施策の転換により一時的な低下が生じていたが、3Qから当該方針の見直しによる効果が現れ、課金ARPUが改善。4Qは概ね横ばいで推移
- 人気作品の連載再開により、一部のアプリでKPIが大きく改善

& Webtoon事業におけるロードマップ

- 今期の最重点施策の一つとしてWebtoonに特化した自社書店アプリを構築し、運用を開始予定
- サービスインは4Qを想定、協業先と連携しながらコンテンツの制作を進める
- 今期はまず約8,500万円の投資枠を想定。コンテンツ及び自社でのアプリ開発費用に充当予定
- コンテンツ制作とアプリ開発が重なる1Q及び2Qに費用が偏重する見込み



1

講談社が運営するアプリに対する コンサルティング業務を拡大



KODANSHA

Palcy
パルシィ

- 当社が持つアプリ運用に関するノウハウを活かし株式会社講談社が運営するアプリ「パルシィ」に対してコンサルティングを提供予定
- 「マガジンプケット」に続くプロジェクトとして取り組みを深化
KPIや市場分析サービス等、総合的なサポートを提供

2

占い事業において人気占い師 星ひとみ監修の新サイトをリリース



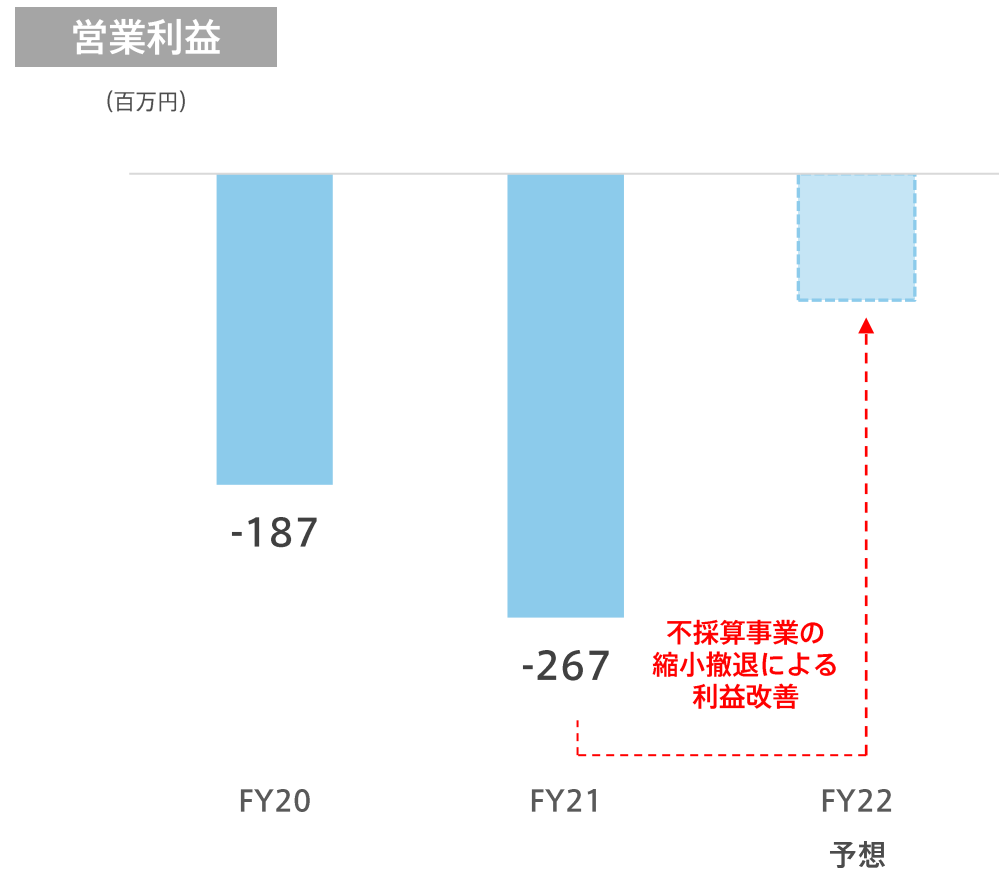
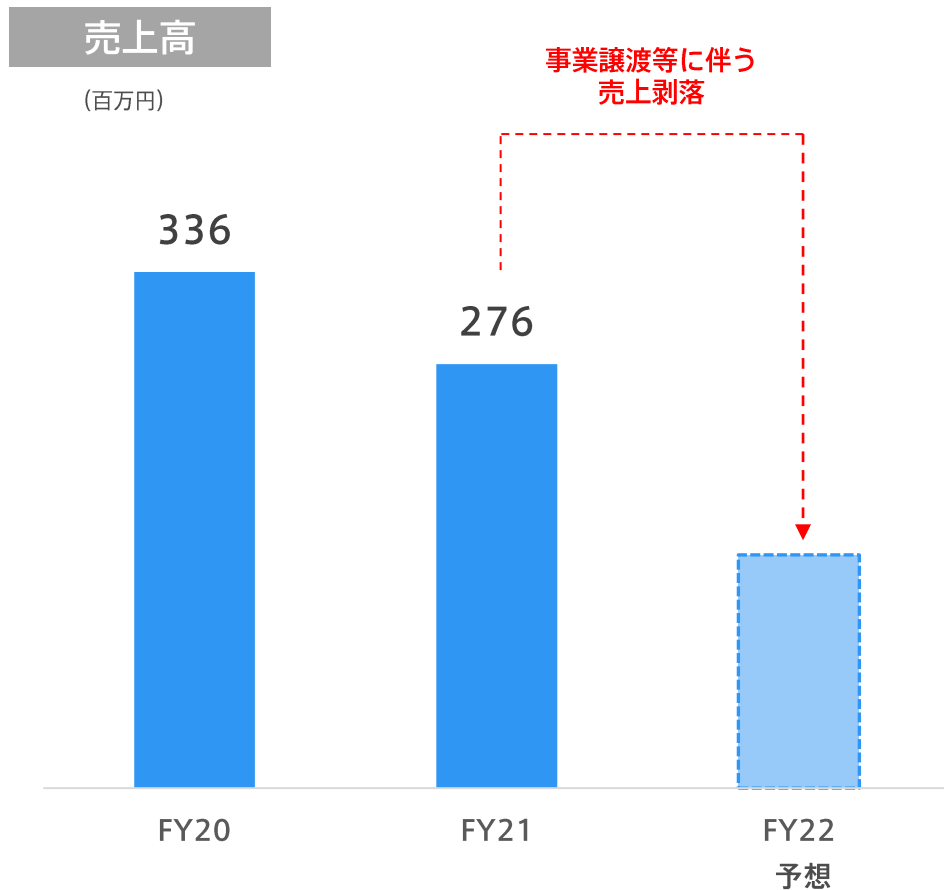
- 9月9日に「星ひとみの占い～5秒で見抜く宿命と刻～」をリリース
- テレビ番組「突然ですが占ってもいいですか？（フジテレビ系）」で話題となっている星ひとみの鑑定「人生における3大転機」を提供
- サイト運用の重要KPIとなるコンテンツ設計、広告マネタイズ、マーケティング分析にそれぞれ専門チームを設置しサービスグロース体制を強化

3. IoT事業



&。売上高/営業利益推移

- &AND HOSTELの休業中の店舗については休業継続
- 自社開発物件の売却は進捗無し、今後動きがあった際には速やかに開示予定
- 今後も事業の効率化や合理化を進め、営業利益の黒字化に取り組んでいく



4.事業方針及び 2022年8月期業績予想



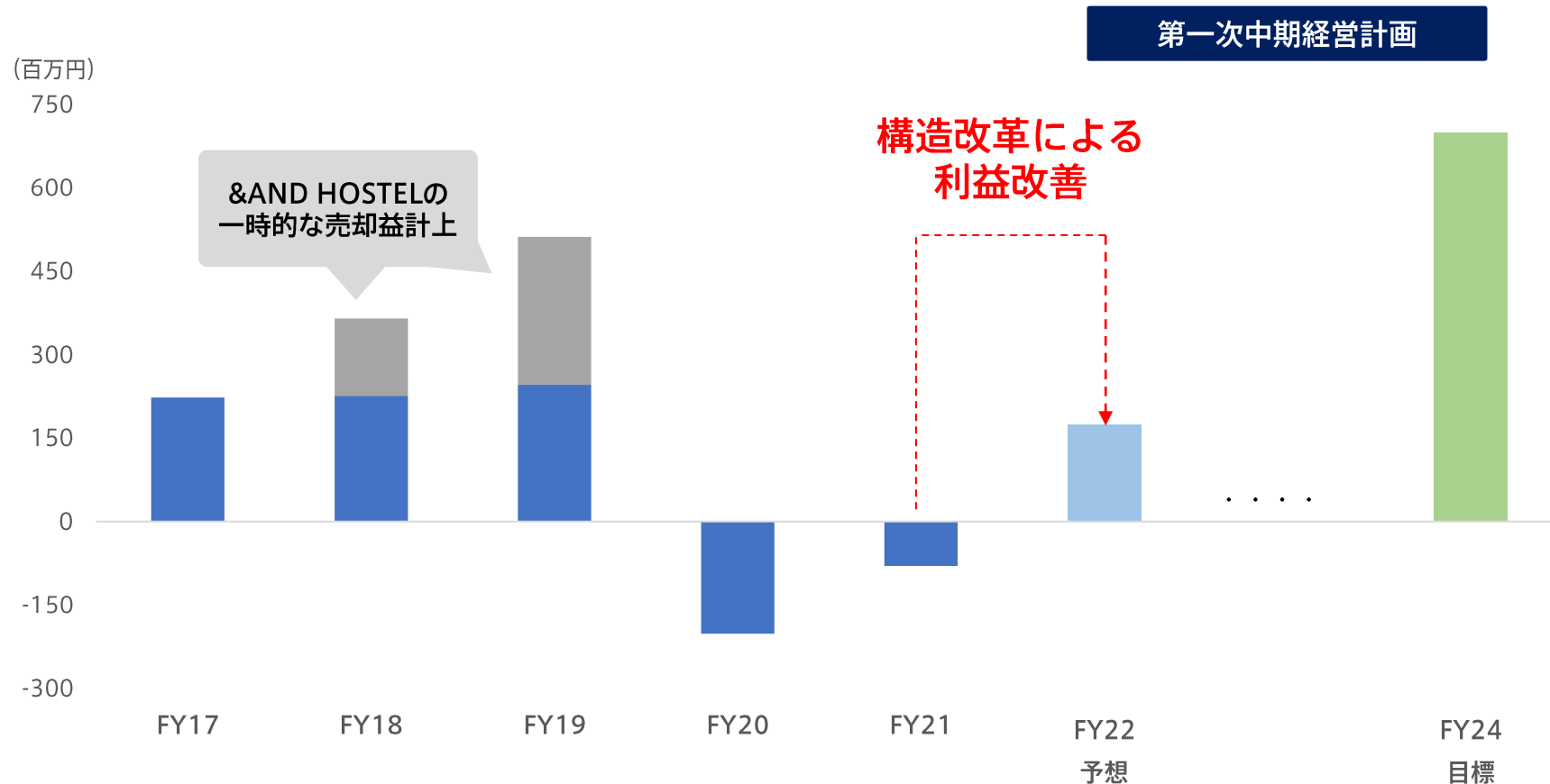
& 2022年8月期業績予想

- 前期の事業譲渡や縮小撤退により売上高が約1.2億円剥落するが、当該要因を踏まえても前期並み以上を目指す
- 営業利益は新規事業等への十分な投資を行いつつ、黒字化を計画
- 移転関連費用は今期も継続して発生することを想定し、営業外費用として織り込み済み

単位：百万円	FY21	FY22	
	実績	計画	前年同期比
売上高	3,044	3,050	+5
営業利益	-83	170	+253
経常損失	-239	-47	+192
当期純損失	-561	-40	+521

&。 営業利益の推移と今後の見通し

- ベースとなる営業利益は着実に成長。ただし2020年8月期以降はCOVID-19の影響が下押し圧力に
- IoT事業における構造改革を通じ、積極投資と利益創出の双方を狙える体制に移行
- 中期経営計画の最終年度の目標に向けて、今期は積極的な投資を推進しつつも一定の利益を計上可能な見込み



&。投資額の内訳と営業利益

- 全社営業利益の大幅な改善にともない、積極的な成長投資を計画
- 既存マンガアプリの広告宣伝費を効率的に運用し、Webtoon事業立ち上げに資本を投下する
- 新たに占い事業に広告宣伝費を投下することにより収益拡大を図る

単位：百万円	前期実績	今期計画	
マンガアプリ			
└ 広告宣伝費（既存アプリ）	1,014	810	効率的な広告運用により利益率改善を図る
└ Webtoonへの投資	—	85	新たな利益ドライバーの早期確立に取り組む
エンタメ			
└ 広告宣伝費（占い）	—	52	今期より本格的に広告宣伝費を投下
その他、新規事業			
└ 研究、先行投資	2.4	30	新たな事業領域の探索を進める 先行投資的な位置付け
全社営業利益	-83	170	実力ベースの営業利益は前期より大きく改善

5. Appendix



& BS増減比較

単位：百万円	2020年8月期末	2021年8月期末	増減比較 (前期末比)
流動資産	5,661	4,733	-928
└現金及び預金	1,028	774	-253
固定資産	681	643	-38
資産合計	6,343	5,376	-967
流動負債	1,858	1,324	-533
固定負債	3,036	3,163	127
負債合計	4,894	4,488	-405
└(有利子負債)	3,812	3,756	-55
資本金	549	549	0
資本剰余金	548	548	0
利益剰余金	351	-210	-561
自己株式	0	0	0
純資産合計	1,449	888	-561

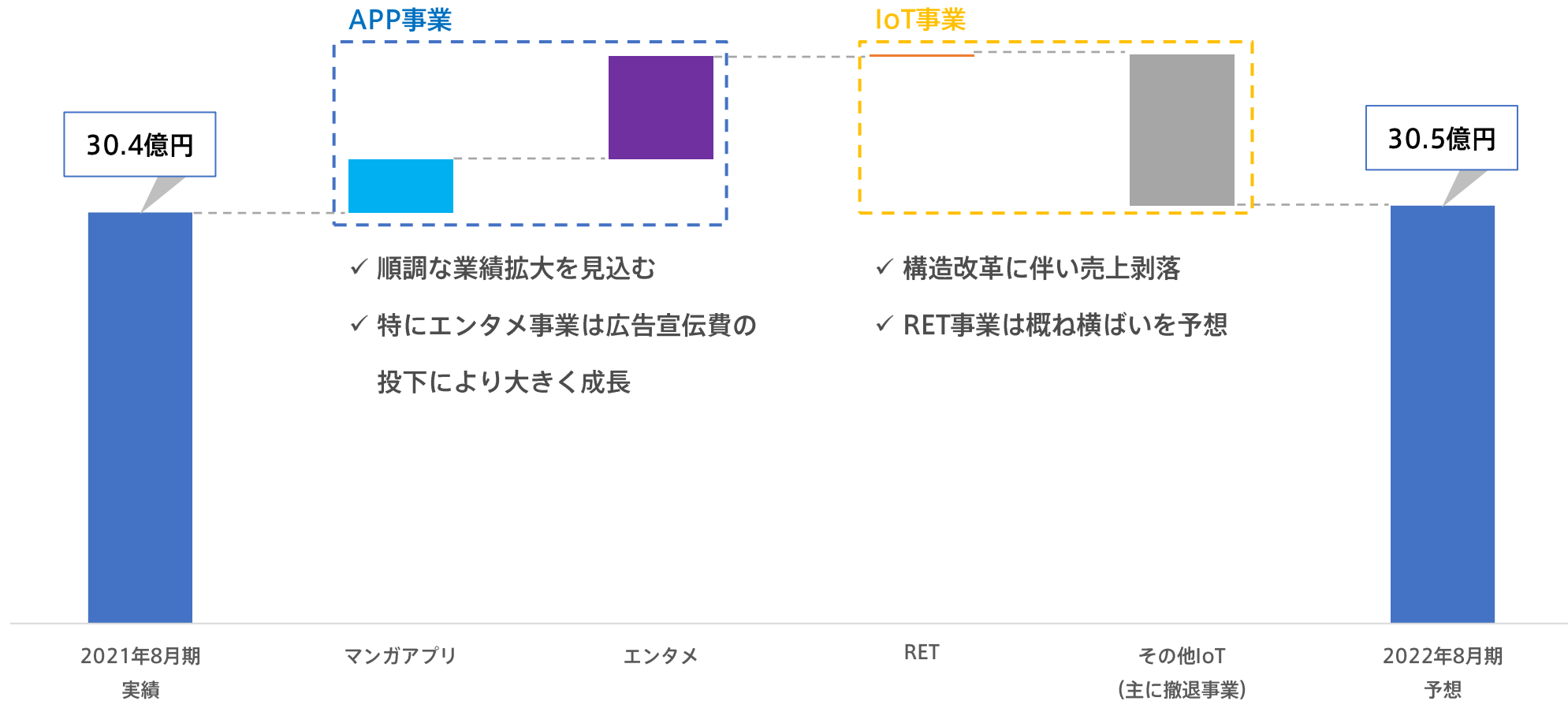
単位：百万円	2020年8月期	2021年8月期	前年同期比	2021年8月期 予想
売上高	2,946	3,044	103%	3,050
└売上高成長率	-25%	3%	—	4%
└APP事業	2,557	2,767	108%	—
└IoT事業	336	276	82%	—
営業損失	-202	-83	—	-90
経常損失	-259	-239	—	-253
当期純損失	-362	-561	—	-540

※当事業年度より、「Smartphone APP事業」の事業領域を見直し、Smartphoneに限定しない幅広いAPPサービスの提供を行うための組織変更を行いました。これに伴い、従来の「Smartphone APP事業」は「APP事業」にセグメント名称を変更しております。また、APP事業に関連するインターネット広告の代理サービス事業を、APP事業で管掌する組織変更を行いました。なお、前事業年度のセグメント情報については、変更後の名称及び区分方法により作成したものを記載しております。

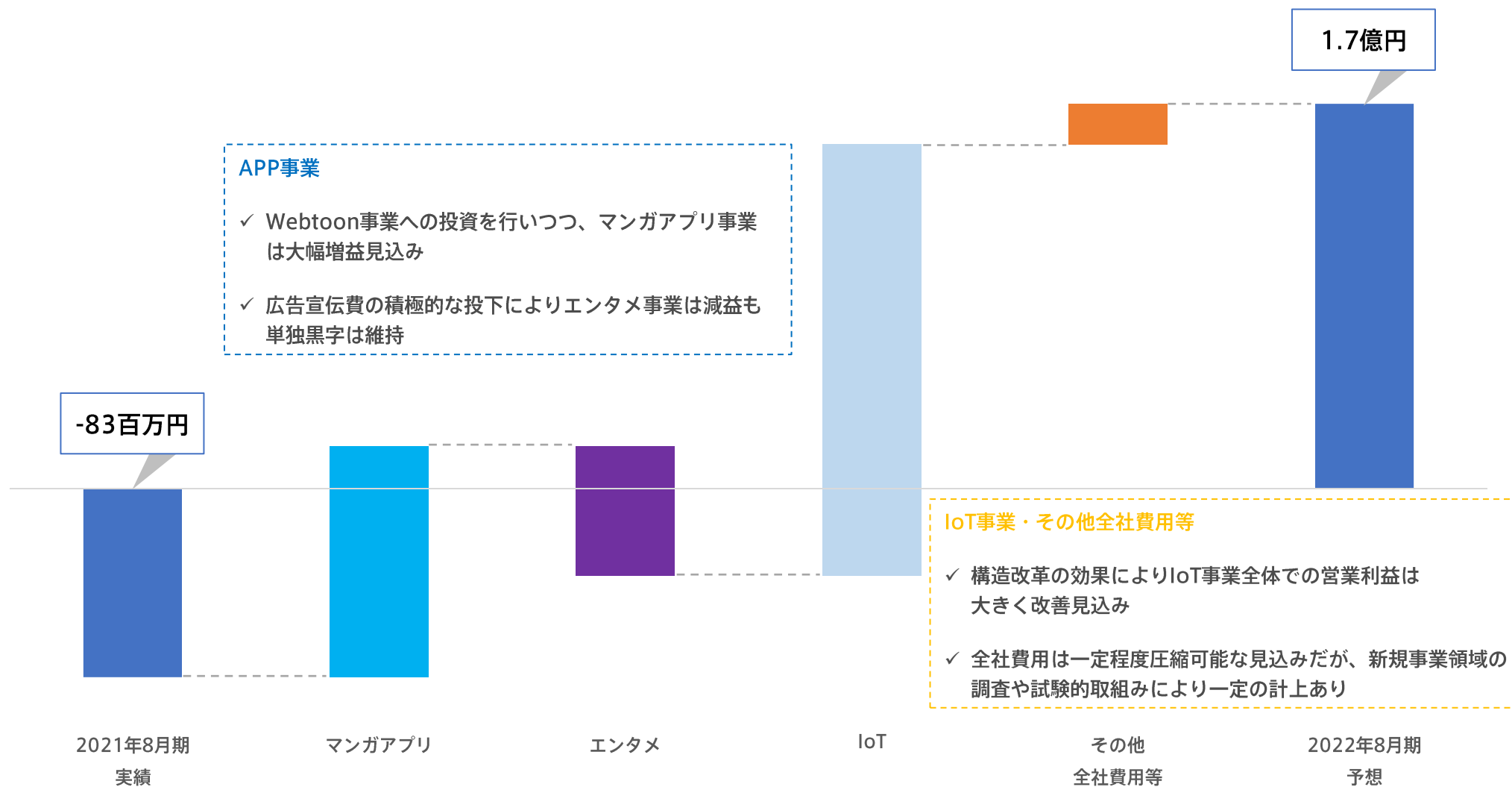
&。事業別売上高・営業利益

単位：百万円		FY20				FY21			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
マンガ アプリ	売上高	577	510	584	616	570	632	606	653
	広告宣伝費	261	276	194	278	297	311	214	191
	営業利益	136	66	151	87	34	94	182	211
	MAU (万人)	641	720	906	994	1,026	1,054	1,056	1,101
エンタメ	売上高	88	88	68	62	62	66	88	87
	占い事業等	31	33	19	27	30	37	54	63
	最強	41	40	36	23	23	20	25	15
	営業利益	15	17	8	-42	10	4	28	22
RET (不動産事業)	売上高	46	30	55	30	34	30	40	36
	営業利益	-30	-31	-20	-45	-52	-50	-29	-36

&。 前期からの売上高の変動



&。 前期からの営業利益の変動



ディスクレームー

- 本書には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。